

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	ポンプ車で放水試験時、機関員の操作ミスにより職員が負傷した事例
3. 体験した事例の中心的要素	揚水操作を行い真空が停止したため、放水口を開き回転数を上げたが流量はわずかであった。再度、揚水操作を行う必要があったが、その状態からさらに回転を上げたため不十分であった揚水が完了し、急激に流量が増加した。流量を下げようとスロットルを操作したが、逆に回転数上昇させてしまい、筒先を保持していた職員が反動により指を負傷した事例です。
4. 体験した事例の原因・理由	ポンプ構造及び操作の知識不足（揚水されていないにも係らずスロットルを高回転にしまったこと）及びスロットルの操作ミスです。

【体験した事例の直接的原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の実行に問題があった。（誤った手順を取った等）
------------------	---------------------------

【体験した事例について】

1. 発生日時	令和5年4月14日 午後2時頃
2. 発生した当時の天候	晴れ
3. 発生した活動現場	屋外：消防敷地内庁舎前防火水槽付近
4. 体験した事例の種類	回答者が、他人を負傷させた。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	軽傷の怪我
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	その他：打撲
7. 事例体験時の活動	その他：消防ポンプ自動車の揚水放水試験
8. （7の活動中）どのような作業中に発生したか	その他：消防ポンプ自動車揚水放水試験
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

○当事者A	年齢[28]歳、勤続年数[7]年、現場経験年数[6] 年、階級[消防副士長] 同様の活動 [1年に数度]、任務 [機関員]
○当事者B	年齢[22]歳、勤続年数[3]年、現場経験年数[2] 年、階級[消防士] 同様の活動 [1年に数度]、任務 [隊員]
○当事者C	年齢[20]歳、勤続年数[2]年、現場経験年数[1] 年、階級[消防士] 同様の活動 [1年に数度]、任務 [隊員]
○その他(当事者が4人以上の場合)	

●●●

	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者A	当事者Aが機械操作を誤ったことにより、 当事者Cを負傷させた。	
経過2			
経過3			
経過4			
経過5			
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

● ●

○事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思うか？

○ヒヤリハットの場合:ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険情報を把握、予見できなかった 集中力、注意力がなかった 指揮者が適切に指示しなかった 他隊(員)との連携活動がうまくいかなかった その他:ポンプ操作の経験不足、知識不足、咄嗟の行動による操作ミス

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	はい
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった(寒かった)。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

私自身、注意力が散漫となりやすい点があり、1つのことに集中すると周りが見えなくなってしまう部分があります。またせっかちな部分もあり、事を急いでしまうなどの性格もあります。そういった点を踏まえると、ポンプ操作ミスについても、トラブルがあった時にまずは一呼吸を置き、周囲を確認した上で、落ち着いて行動をすべきであったと反省しているところです。

○装備・資機材の対策について

事故当時、人事異動により初めて警防係に配属され、事故の要因となったポンプ車での揚水は初めてでした。ポンプ操作の知識不足、経験不足はもちろんのこと、車両の特性を理解していなかった点も挙げられます。まずはしっかりと基礎となる知識を身につけ、事前に当該車両について調べるなどの対応をすべきでありました。

○活動環境の対策について

活動環境に問題はありません。

○指揮・情報伝達の対策について

事故当時、揚水放水試験を行っていた隊の中では、私が年齢も勤続年数も一番上でありました。事前に本試験（ポンプ操作含む）における注意点等を全員で確認し、突発的なトラブルに対し指揮者（私）を中心に隊として情報伝達が迅速にできる環境を整えとくべきでした。上位階級である立場として自覚を持ち、後輩職員に対して見本となる行動をすべきだと再認識したところです。

災害発生状況図

(説明) 災害発生前の職員の位置関係を示した図



(説明) 指揮者がスロットル操作を誤り高回転にした時の様子



(説明) 筒先が防火水槽の中から出てしまった時の様子



(説明) 筒先が手から離れる際に、右人差し指が筒先取手部分に引っ掛かる様子

